

**授業概要**

20世紀後半から大きく発展した応用倫理学の中でも、最も社会からの要請が強い生命の倫理について学びます。科学技術が進歩して、人類に繁栄をもたらすと思われていましたが、予想もしなかったような難問が生じてしまいました。

「生老病死」という四字熟語に象徴されるように、我々が生まれて生きて死んでいくまでのすべてに関わるのがこの生命の倫理なのです。

**授業計画**

|        |                 |                      |
|--------|-----------------|----------------------|
| 第 1 回  | 生命の倫理とはどのような学問か | 生態系倫理と生命医療倫理         |
| 第 2 回  | 概論 (1)          | 生命倫理の四原則             |
| 第 3 回  | 概論 (2)          | ジュネーブ宣言とハルセロナ宣言      |
| 第 4 回  | 概論 (3)          | 患者中心医療とインフォームド・コンセント |
| 第 5 回  | レポートの書き方 (1)    |                      |
| 第 6 回  | 問題 (1)          | 生の選別と生殖医療            |
| 第 7 回  | 問題 (2)          | ケアとはなにか              |
| 第 8 回  | 問題 (3)          | 終末期医療                |
| 第 9 回  | 問題 (4)          | 脳死と臓器移植              |
| 第 10 回 | レポートの書き方 (2)    |                      |
| 第 11 回 | 問題 (5)          | 医療アクセス権と「知りたくない権利」   |
| 第 12 回 | 問題 (6)          | エンハンスメントとデザイナー・ベビー   |
| 第 13 回 | 問題 (7)          | 科学技術と生命の倫理           |
| 第 14 回 | 問題 (8)          | iPS細胞と再生医療           |
| 第 15 回 | 全体のまとめ          |                      |
| 第 16 回 | 筆記試験 (教場レポート形式) |                      |

**到達目標**

- ・生命の倫理について全般的に理解する。
- ・生命の倫理を身近なものと感じ、実践的に行動できるようにする。
- ・身につけた倫理観によって社会規範を再確認してみる。

**履修上の注意**

- ・初心者から中・上級者まで、広く受講できる授業です。
- ・既習内容についてはこまめに復習して定着させるよう努めましょう。
- ・疑問点を日頃から用意し整理しておきましょう。

**予習・復習**

- ・授業で学んだことは必ず復習すること。
- ・次回以降の課題についても、自分で調べられるものは読んでおくなどするのが望ましい。

**評価方法**

- ・平常点 (レビューシート等による授業への積極的な参加) 50%
- ・筆記試験 (教場レポート形式、あらかじめ提示された課題について論ずる。自作ノート持込可) 50%

**テキスト**

- ・教科書名：『生命の倫理 入門篇』
- ・著者名：伊野 連
- ・出版社名：三恵社
- ・出版年 (ISBN)：978-4864875240

その他、パワーポイント、プリント等を配布することもあります。それ以外のものはそのつど教室で指示します。